

青公大は「適合」

大学基準協会（東京）は26日、2018年度に実施した全国27大学の評価結果を公表し、本県では青森公立大学を「適合」とした。青森公立大に対しては、学生のキャリア支援に教員・大学が積極的に関わり、県内や東北・北海道への就職割合が高い水準を維持。地域貢献にも結びついている

ると高く評価。県内自治体との連携協定に基づき、双方向的な連携を長期にわたって展開している点も卓越した取り組みと認めた。

一方、組織的に授業内容などを改善する「ファカルティ・デベロップメント（FD）」を大学院固有で実施していないとし、改善

を求めた。香取薫学長は「120%満足という内容ではない。大学としては引き続き改善すべきは改善し、より良い教育を行っていきたい」と取材に述べた。

専任教員数が不足しているなどとして、17年度に同協会から「不適合」の判定を受けた弘前学院大学は、近く改善報告書を提出し、19年度に追評価を受けるという。すべての国公立大は04年度から、同協会や日本高等教育評価機構など第三者機関による評価を7年以内に1度受けることが義務付けられている。18年度評価では青森公立大など25校を「適合」、残る2校を「保留」と判定した。（熊谷慎吉、太田佳希）